

巻 頭 言

北海道大学大学院理学研究院数学部門

齋藤 睦

日本数学会の 2022 年度秋季総合分科会が北海道大学において対面で開催されて 1 か月ほど経ちました。皆様の御蔭で大きなトラブルもなく無事開催できました。また、この学会でクラスターが発生したなどというようなこともなく、関係者一同安堵しているところでございます。ご協力いただき誠に有難うございました。

幾つかの運営面の事項に関し、今回の開催を振り返っていこうと思います。

北海道大学数学部門では、2020 年 11 月に 2022 年度秋季総合分科会の開催校を引き受けることを決定致しました。直後に、遂行する中心の実行委員長は久保英夫先生、大会委員長は僭越ながら私が務めることとなりました。当時は、さすがに 2022 年秋にはコロナ禍も収まっているだろうと高をくくっておりました。現実にはご承知の通り、流行の波が何度も訪れ、コロナ禍は現在も続いております。日本数学会の春、秋の学会は 2020 年春から 2022 年春までオンライン形式の開催となりました。それぞれの開催校では対面開催を前提にご準備をされて結果的にオンライン形式となってしまった訳で、関係者の皆様のご落胆とご苦勞が思いやられます。

2022 年秋も対面開催を決定したものの、感染力も毒性も強い変異株が現れるかもしれないという不安は直前まで拭い去れないものでした。幸いそういうこともなく第 7 波の下降局面で開催できたのは僥倖とっております。

コロナ禍での対面開催ということで、通常の間催と異なっていたところがありましたので、そこを中心に振り返ります。

コロナ禍も 3 年目ですので、マスクの着用やアルコールによる手指の消毒などは人々の習慣になっているので、特に心配なことはございませんでした。また、最近換気が特に重要な感染防止対策であることが言われていますので、窓、ドアの常時開放に留意しました。幸い、暑くも寒くもない時季で、台風などの嵐にも遭わず、常時開放ができたのもまた僥倖でした。

皆様には、事前登録、当日登録をお願い致しました。何度も登録をお願いし、大変煩わしい思いをされたと思います。ご協力有難うございました。日本数学会の学会は、登壇は会員に限りませんが参加自由な開かれた学会と認識しております。事前登録の方はコロナ対策もありますが、参加者数の概数の把握という意味もございます。また、当日登録の方は、基本的に万が一の場合に備えたものであります。

皆様にご不便な思いをさせたであろうこととして、飲食場所の制限もございました。飲食中の感染可能性の高さもよく指摘されているところであり、また、北

大は札幌の中心部にあり大きい大学生協もありますことから制限をさせていただきました。ご理解いただければ有難いと思います。なお、コロナ禍以前の学会では各種委員会でのお弁当の手配などもありましたが、都市部での開催では、お弁当を各自用意するのに不都合はないと思われます。コロナ禍終息後も、都市部での開催ではお弁当は各自用意するようにすると開催校の負担の軽減につながるものと思います。

今回は、学会賞の授賞式、受賞講演、総合講演、企画特別講演においては、行木孝夫先生をはじめとする諸先生のご尽力によりハイフレックスで行われました。無事トラブルなく配信され、皆々様に感謝申し上げます。その仕事振りに近くで接していましたが、大変な労力です。特に企画特別講演については同時に 3 講演ある日があり、同時配信をミスなく行うことの難しさを強く感じました。

また、各会場の消毒は、最終日は業者に頼みましたが、それ以外は 1 日の終わりにこちらで行いました。各会場の会場係の先生とアルバイト 2 名の 3 人 1 組で 1 人が消毒液をスプレーし、他の 2 名がペーパータオルで拭いていくという要領です。担当された方にはエキストラワークになってしまいました。特に 200 名規模以上の部屋は相当大変だったと思います。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

アルバイトについても一つ書かせていただきます。アルバイトの方に体調不良者がそれなりの人数で出るかもしれないという想定をしないといけませんので、ある程度の待機要員も用意致しました。そう言う事情もあり、結構、大人数になり、アルバイトの募集には苦勞致しました。

市民講演会の方も、トラブルなく開催されました。同日午前に行われたより一般向けの講演会「人々に届け！数学の手触り」が超人気で、それにつられたこともあってか、市民講演会の方の事前登録が満員締め切りとなってしまう、会場に来られるのを断念した方もおられるかと思えます。ご講演の内容は、『数学通信』の次号に掲載されるかと思えますので、そちらを是非ご覧ください。

前回北大で開催したときと比べるとスタッフの数が減っており、先生方の一人当たりの負担がどうしても増えてしまいました。今回のようなコロナ禍での開催だと確かに開催校の先生は現地に確実にいらっしゃるということがあり、仕方がなかったということは分かりますが、開催校の先生に座長をなるべく依頼しないよう各分科会の評議員の先生にはご配慮をお願いしたいと思います。

今回、このような大役を務めさせていただき、学会の裏方の方々の仕事の一端を拝見させていただきました。裏方の皆様のご尽力があっはじめて学会開催が成り立ちます。皆様には感謝しきれません。

対面開催により会員間の活発な交流が持てますので、来春以降の年会、秋季総合分科会も引き続き対面開催できる状況であることを切に祈ります。